

声の広場 (3ページから続き) 神学校で「神学する、訓練を受けること」がどんなにか素晴らしいことなのか、またその必要を互いに認識し共有することから始まります。2017年度後期連続公開講座「信徒のための説教」が、サテライト形式で各教会で学べることは画期的なことです。参加者の方から「一緒に学びませんか教会の中で声をかけやすいし、学びが楽しい」との声を聞きました。良いプログラムこそ協力と援助の力の源と考えています。

神学校献金の取り組み

横浜JOYバプテスト教会
澤田 猛 (東京バプテスト神学校聴講生)

横浜JOYバプテスト教会は伝道所開設から18年になりますが、教会から献身して西南学院大学で学び、牧師として活躍されている方が2名(佐藤浩牧師、林健一牧師)、東京バプテスト神学校の教会音楽科を卒業され横浜JOYで奏楽奉仕をされている方が1名(末永美奈子姉)、東京バプテスト神学校の聴講生が1名(澤田猛兄)、東京バプテスト神学校専攻科卒業後、横浜JOYで伝道師として奉仕されている神山武先生、東京バプテスト神学校で教会音楽科主任をされていた大矢公子主事など、神学校に関わりのある方が何人もおられます。また、夏のファミリーキャンプでは、西南学院神学部より神学生を招いて、証しをしていただいたり、神学校週間に礼拝メッセージをしていただいたりして、神学校のことをより身近に感じ、神学生の方々の学びや先生方の働きを覚えて祈る時を持っています。

横浜JOY教会では、壮年会としての組織はありませんが、神学校週間献金は、有志によるアピールに応じて教会員が捧げる献金と共に、2月から7月の毎週の祈り会で捧げられる自由献金を加えて、西南学院大学と東京バプテスト神学校へ捧げています。(8月から1月の自由献金は世界祈禱週間献金に充てます。)最近、献身者が少なかったり、牧師に就任する方が少ないということを目にします。高齢化する日本にあって、献身者が起こされ、牧師として歩む方が起こされることを祈り続けなければならないと痛感しております。



神学校献金(教会・集会)実績

2017年4月~12月末

48件 合計 1,889,163円

【東京地方連合】19件 篠崎キリスト教会(5) 渋谷バプテスト教会(2) 茗荷谷キリスト教会 大久保バプテスト教会 多摩みぎわ伝道所 花野井バプテスト教会 蓮根バプテスト教会(2) 仙川キリスト教会 大井バプテスト教会 富里キリスト教会 日本バプテスト船橋キリスト教会 赤塚バプテスト教会 日野神明キリスト伝道所

【北関東地方連合】6件 飯能バプテスト教会 日本バプテスト前橋教会 ふじみ野バプテスト教会 新潟市の港キリスト教会 所沢キリスト教会 西川口キリスト教会

【神奈川地方連合】9件 川崎バプテスト教会 相模中央キリスト教会 大森野バプテスト教会 青葉キリスト教会 横浜JOYバプテスト教会 港南めぐみキリスト教会 藤沢バプテスト教会 湘南台バプテスト教会 横浜戸塚バプテスト教会

【その他】4件 三沢バプテスト・キリスト教会 金沢キリスト教会 西原新生バプテスト教会 大阪中央バプテスト教会

【集会】14件 入学礼拝 東京地方連合南ブロック女性会 東京地方連合総会 東ブロック女性集会・北ブロック女性会・西ブロック女性会 夏期講座開会礼拝 東京地方連合教会教育委員会 東京地方連合東ブロック幹事会 後期入学式礼拝

神学校デー 教役者研修会 東京地方連合教会教育研修会 冬期講座開会礼拝

神学校献金(個人)実績

2017年4月~12月末

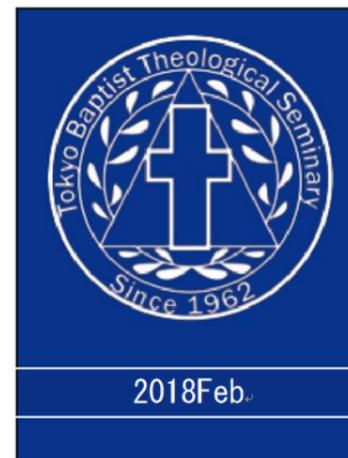
69名74件 合計 522,000円

山本弘夫 川勝高宏 秋山信夫・純子 堀野浩嗣 越智満 渡部富夫(3) 川上鏡子 三木暁・百代 小柳隆司(2) 辻真理子 西方泉(2) 小勝琢生(3) 北野弘子 神山武 内藤淳一郎 奥田厚子 森田敏夫(2) 北島靖士 川平朝清 稲山良二 杉山初美 鳥飼好男 水口仁平(2) 浅野邦夫・和子 山崎清美 清水智子 奥谷恭子 鳥山美恵(2) 小松澤一枝 柏いずみ 鶴野博子 加山礼子 高橋望・由美 菊池正弘 吉崎基子 奥谷由行 都丸利子 下舞賢一 角田誠 瀬戸口憲二 中嶋名津子 米田景子 根本望 小林麗奈 角田芳子 藤原俊子 鈴木宗一・幸子 青木節子 澤田猛 竹村紀彦 竹内正幸 奥田光子 吉田美佐子 刈田澄子 坂元幸子 伊藤真知子 岡田富美子 高柳美枝子 東方敬信 瀬戸口早苗 井上政博 藤井秀一 石垣茂夫 氷川英俊

東京バプテスト神学校の働きを支援するために、あなたも「後援会」にご入会ください

1. 定期支援・・・個人会員 年額1口5,000円 何口でも歓迎します。
2. 自由献金支援・・・支援額も、支援回数もご自由にお決めください。
郵便振替口座 00210-8-75658 東京バプテスト神学校後援会
*後援会負担の振込用紙をご利用ください。

東京バプテスト神学校後援会ニュース NO.24
発行日 2018年2月1日 発行者:東京バプテスト神学校後援会 秋山信夫



東京バプテスト神学校 後援会

NEWS

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 ☎03-3947-5141 メール seminary@tbts.jp

巻頭言

後援会に入って、公開講座を受講しませんか?



後援会会計・神学校事務長 川口 通治(篠崎キリスト教会牧師)

東京バプテスト神学校では2017年度後期(10月~2月)に、連続公開講座「信徒のための説教」を開講し、初めて教会共同受講(受講者がそれぞれの教会に集まり、ライブ通信による集団受講を行う)を行い、48名の方が受講されました。神学校教室は東京にあります。遠隔地の教会の方は、通学が難しく、そのため教会共同受講という方式でご自分の教会にて学ぶ方式が皆様に歓迎され、教会共同受講の方は32名になりました。

同時に後援会会員の方は受講料を半額にしました。通常の受講料は1講座(15回)30,000円ですが、後援会会員の方は半額とし、後援会会費5,000円を加えても、20,000円で受講できるようになり、10名を超える方が新たに後援会に入会して、受講料半額の恩恵を受けられました。本来の後援会は神学校を財政的にサポートするためのものですが、これまでは加入のメリットが感じにくく、加入者は卒業生や神学校関係者など少数でした。今回の措置で多くの方が後援会に新規加入していただきました。

さて、現在の教会は厳しい環境下にあります。新来者が減り、受洗者も減少し、教会の高齢化が進み、60歳以上の会員比率が50%を超えるようになり、教会の限界集落化(ここまでは絶滅する)が進行しています。この流れは全世界的であり、人々は神の存在を疑い、宗教的な組織や施設に懐疑的な目を向け、教会の礼拝に参加する人が減少しています。

それにも関わらず、バプテスト連盟は15千人の現在会員を抱えており、毎週日曜日にそれだけの人が教会に行っている事実は社会的にインパクトがあると考えます。他方、バプテスト連盟の在籍会員数は50千人を超え、35千人の「失われた羊たち」がいる事実が心痛みます。アンケート等によれば、キリスト教を信じている人は0.9%ですが、キリスト教に親しみを感じる人は12.5%、聖書や経典を読む人は26.4%、聖的な存在や霊的な存在を信じる人は26%おられます。福音を人々は求めており、求めている人たちはいかに教会に招くかを知る知恵が必要であり、同時に失われた羊を再度教会に戻す工夫も

必要です。そのためには神学(特に実践神学)についての基本を学ぶ必要があります。

東京バプテスト神学校では、2018年前期(4~9月)には連続公開講座「教会と信徒のための管理学~教会がその社会的責任を果たすために」を15回にわたって開催する予定です。ホームページやSNSの活用、牧師招聘や教会建築、法人化、教会会計の実践を学びます。また2018年後期(10~2月)には「キリスト教倫理~隣人愛を考える」を開催する予定です。聖書の中核の教えであります「隣人愛」について、聖書から、歴史から、現代の偉人から、学んでいきます。さらには夏期・冬期集中講座では、同志社大学・越川弘英先生をお招きして、「礼拝とは何か」を開催予定です。

私たちはこのような講座に皆様の参加をいただき、どうすれば委ねられた福音伝道の責任を果たすことができるかを、共に考えて行きたいと願います。ぜひ後援会にご加入いただき、割安な費用での講座の参加をご検討いただければ幸いです。

卒業生の証 恵まれた宣教

榎本健二郎（八幡浜バプテスト教会牧師）

『榎本健二郎』は、八幡浜バプテスト教会に就任して17年間経ちました。

「八幡浜市」はミカン町、漁業の町で、市の人口は、17年間で30%も減少する過疎化の町で、高齢化率は40%を超えています。県面積の約半分の「南予地区」唯一のバプテスト教会として、信仰の継承者の育成を祈っています。

「八幡浜バプテスト教会」は、現在14名ですが、長期入院者や長期入所者が4人おり、実質10人の小さな群れです。その中から、住居が遠方になったり、公立中学校教員のため日曜出勤が多くなったりして、毎週の主日礼拝が守りがたい家族が二つでき、主日礼拝出席者数が激減しています。地方の教会は、求道者をねんごろに育て、教会員として迎え入れ、そして、送り出して行きます。その典型的なことがありました。初夏の主日に「礼拝に出さしてください」と男性医師が訪ねてきて、その日から、礼拝と祈禱会に3年間、ほとんど休むことなく出席し、祈禱会が終わった後にも、長く語り合う時を持ちました。晩夏の祈禱会の後、「バプテスマを受けたい」との申し出があり、バプテスマの準備をし、10月第4週にバプテスマを受けました。久しぶりのバプテスマ式で、教会員一同感謝して喜びました。しかし、翌週には、九州に転勤になってしまい、実質的に一週間だけの教会員増でした。毎日朝早く約6キロをジョギングし、行き交う人と声を掛け合っています。知人ができ、産物を持参して教会を訪ねて来る者もあります。「先生、僕の葬儀を教会でしてくれない。予約するよ」と言う人もいます。その人には、「分かった。教会の礼拝に出なさい」と言います。



2018.1.1 1歳と10歳 二人の成長感謝祝福

榎本佐智子（八幡浜バプテスト教会副牧師）

『榎本佐智子』は、副牧師で、一年遅れで就任しましたから、16年目になり、礼拝説教(年20回位)や教会学校などに仕え、そして、長期入院者などと、電話で「賛美、祈り、語り合う」ことを、毎日続けています。

「八幡浜」に就任後、すぐに(2003年)市立図書館員と共同で「読み聞かせの会」を発足させ、毎週土曜日に図書館で、幼児・子供向けの「読み聞かせの会」の奉仕をし、又、市内の数校の小学校や中学校、時には、県立高校から依頼を受けて、「読み聞かせ」を続けています。お陰で、町なかで挨拶され、感謝されることが多くあります。これらの活動が評価され、愛媛県奨励賞や文部科学大臣賞を受けました。さらに、八幡浜市の保健所の「乳児の3ヶ月検診」の時に、「乳児と親」の一組ずつに「読み聞かせ」を行う「ブックスタート」を、12年間続けました。町なかで子育て中の母親などからの挨拶が多くされています。

教会でも、乳児も親と一緒に参加させ、大人の礼拝で、小学生がハンドベル賛美の時には鈴を持って参加し、又、手話賛美の時も手遊びをしているかのように、喜々として参加しています。

「八幡浜バプテスト教会」は、高齢化・過疎化の中にありますが、就任17年間に、バプテスマ2人、「教会員の」結婚式二組、葬儀0人、出産6人と恵まれていることを感謝します。なお、転入2人、転出は6人です。二人で共に、地域から親しまれ、御言葉の伝わる教会になれるように、祈り、奉仕しています。

東京バプテスト神学校で習ったヘブル語を忘れないように、就任当初から二人で、詩篇を毎日6節、ヘブル語で読み続けました。旧約の説教準備には、ヘブル語を活用できています。



2018.1.1 元旦礼拝にて

声の広場 ～後援会に期待することを、後援会会員の皆さまから寄せていただきました。～

愛のぬくもりを届ける後援会

小松澤一枝（目白ヶ丘教会員）

後援会は2002年に発足し、神学校との協働によってその働きが主の導きのうちに祝福されてきました。神学校の図書が充実し、又、授業の聴講、通信など、継続的な学びで絶えず成長出来るように温かい配慮がなされていることは嬉しいことです。今は茗荷谷教会をお借りして快適な環境で授業が行われ、ライブ授業も出来るようになりましたが、大きなヴィジョンとして、将来は神学校独自の教室が与えられることを願っています。

神学校のさらなる充実発展のために、後援会の役割とその働きには、たくさんの課題があるように思います。多くの方に後援会のことをお伝えし、加入していただき、共に協力し、支援していきたいと願っています。さまざまな場所での後援会のアピール、そのための資料を整える必要もあるでしょう。又、神学校で学ぶ人がもっと起こされ、学びの場として広がるように、神学校の公開講座、オープンスクール、研修会などの企画、応援など積極的に協力していきたいと思います。後援会の活動・ニュースをお届けすることも必要です。継続的な財的支援も大事です。と同時に祈り励ます霊的支えも忘れてはならないでしょう。祈りのネットワークを広げ、神学校を支えていくために、そして、働きながら、夜間神学校で真剣に学んでいる神学生のために、共に祈り、ささやかな働きでも心のこもった愛のぬくもりを感じる事が出来るような後援会の働き、役割を果たしてゆきたいと願われています。

後援会に期待するもの

神山 武（横浜JOYバプテスト教会伝道師）

神学校の財政基盤強化に貢献する・・・神学校の理事として参加させていただいていますが、財政は脆弱です。講師、スタッフの謝金を削るようでは満足な授業ができません。現在、後援会費が一口5,000円となっていますが値上げすべきでしょう。卒業生が全て後援会に入っているのかわかりませんが、恵みをいただいた応答として、入会して後援会を盛り上げるべきです。

後援会総会をもっと楽しく・・・決算、予算の審議だけでなく、講師をお招きして役に立つ話を聴いたり、立食パーティを開くなどして、卒業生同士が親しく交わる機会を作ってはいかがでしょうか。

神学校を支援する機関誌として・・・2月に「後援会ニュース」を発行することになったことは、大変喜ばしいことです。東京バプテスト神学校の広報は弱いと思います。もっと強く打ち出すべきです。

後援会を覚えて

辻 眞理子（姫路城西キリスト教会牧師）

主のみ名を賛美いたします。いつもお祈りに覚え支えて下さり感謝します。2014年、姫路に遣わされ4年目となります。関西連合には神学校の先輩後輩もおられ、勇気を貰います。卒業教役者研修会は同窓会のように懐かしく、教会の様子も分ち合える恵みの時。前回は秋山信夫牧師(上尾教会)の長年の牧会経験を通して、工夫されチャレンジされた事例を具体的に伺い、貴重な気づきや大きな励ましを頂きました。地域的・経済的にも孤立しがちな牧師には、コミュニケーションもとれる「継続的な学びの場」が必要と気づいた時、それは神学校・後援会の存在でした。私たちはいつ迄も神学する一現実の教会や生活の場から、主を見上げ、どう思考して行くのか一でありたいと願う時、既に情報を発信している神学校・後援会の働きは、常に私たちの助け手であると改めて知って喜び、今後も大切に関わっていききたいと思います。感謝します。

後援会に期待する活動

飯野 實（宮原キリスト教会員）

2014年9月に施行された後援会会則によりますと、会の目的は教育理念への賛同とともに学校の健全な運営維持のために協力、援助することです。よって期待することと併せて一会員として協力と援助をどのように出来るのかを書きます。後援会の事業に参加するには、献金・会費・募金を通じて学校運営費に対する援助を高めること、更に広報活動や学校諸行事に積極的に参加することを大切にします。（4ページに続く）